

34

もったいない

「もったいない」とは、物の本体を失うことをさす言葉でした。しかしその奥には、「努力」や「苦勞」、「時間」や「歴史」など、せっかく積み重ねてきたことを「失ってしまう」「無にってしまう」ことへの無念と悲しみがあります。

「もったいない」に秘められたいちばん大切な心は、物を惜しむこと以上に、そのものを得るまでのさまざまな労苦、形には表れない大切なものに対する、感謝と敬愛の念なのです。



友人がいれてくれたコーヒーをこぼしてしまったら……。

「あー、もったいない。」